特集論文

当社グループのSDGsへの取組み

NISSIN ELECTRIC Group's Engagement with the SDGs

小　池　辰　典
Koike Yoshinori

1．はじめに

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットにて、加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。17の目標・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身も取組む普遍的なものである。

当社グループは2021年4月に、2025年度を達成目標とする中長期計画「VISION2025」（**図１**）を始動している。「VISION2025」では、SDGsへの貢献を戦略の中核に据え、「日新一新」の合言葉のもと、グループ社員一人ひとりが変化に適応し、また変化を創造することで、2050年に向けて「多様な価値観が尊重され、チャレンジ意欲を持った活動ができる環境のもと、一人ひとりが社会に貢献していることを実感でき、確かな技術力で持続可能な未来を創造する会社」に生まれ変わることを掲げ、取組みを開始した。

本稿では、その概略を紹介する。

図１　VISION2025で目指すイメージ

2．「VISION2025」を通じたSDGsへの取組み

当社グループは、100年を超える歴史の中で培った企業理念「日新電機グループは、社会と産業の基盤を支える企業活動を通じて、環境と調和し活力ある社会の実現に貢献します。」と、行動の原点である「5つの信頼（お客様からの信頼、株主からの信頼、社会からの信頼、パートナーからの信頼、社員相互の信頼）」を重んじる多元的な価値軸による企業経営を行ってきており、これはSDGsの理念と通じるものであると考えている。

また、2019年4月に改定した「日新電機グループ企業行動憲章」（**図２**）では、「地球環境問題への取組み」としてSDGsへの貢献を念頭におき、「持続可能な経済成長と社会課題の解決に貢献」を明記した。

日新電機グループ企業行動憲章

1．**お客様のニーズに合った製品・サービスの提供**
独創的な新製品・新技術を開発し、安全・高品質な製品・サービスをタイムリーに提供することにより、お客様の信頼にお応えします。

2．**地球環境問題への取り組み**
地球環境問題に主体的に取り組み、持続可能な経済成長と社会的課題の解決に貢献します。

3．**社会の一員としての行動**
企業情報を適切に開示し、広く社会とコミュニケーションを取り、積極的に社会貢献活動に参画します。

4．**人権の尊重と公正な企業活動**
人権と国際ルールや各国の法令・文化を遵守・尊重し、誠実かつ公正な企業活動を行います。また、公正に競争し、パートナーと適正な取引を行います。

5．**多様性の尊重と安全で働きやすい職場環境の実現**
全ての社員が多様性を尊重し相互に協力し合い、能力を発揮できる企業グループを目指します。また、安全で働きやすい職場環境を実現します。

6．**危機管理の徹底**
自然災害やサイバー攻撃等に対し危機管理を徹底し、社会における責任を果たします。また、個人や顧客等に関する情報管理を徹底します。

図２　日新電機グループ企業行動憲章

新たな中長期計画「VISION2025」では、「持続可能な地域環境とあらゆる人々が活躍する社会の実現のために」活動することにより、SDGsへの取組みを
「ビジネスチャンスとして成長戦略へ」つなげ、
「企業としてのプレゼンスを高め」、
「一人ひとりが仕事を通じて社会貢献に寄与することで、社員のモチベーション・満足度を高めて成長していく」ことを目指している。

また、当社グループの事業活動は、**図 3** に示すようにSDGsに何らかの関連があり、特に製品・サービスでは、以下の6つに密接に関連している。

「目標 6 ：安全な水とトイレを世界中に」
「目標 7 ：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」
「目標 9 ：産業と技術確認の基盤をつくろう」
「目標11：住み続けられるまちづくりを」
「目標12：つくる責任 つかう責任」
「目標13：気候変動に具体的な対策を」

主な取り組み

- **水質改善に貢献**
  上下水処理設備の維持管理／ASEAN、中国での水処理改善
- **電力の安定供給に貢献**
  再生可能エネルギー発電対応システム／電気を高効率で使うためのEMS（エネルギーマネジメントシステム)／高品質な電気を届けるための系統連系設備
- **電力インフラ構築に貢献**
  パワーデバイス向け装置／直流配電システム製品／国土強靭化基本計画による需要拡大／金属受託加工の拡大
- **安全･安心のまちづくりに貢献**
  中央監視制御システム(水処理、高速道路)／地域コミュニケーションサービス
- **AI･IoT活用でCO2排出量削減**
  エネルギー効率の高いスマート工場／センサー活用による点検
- **素材の高機能化で環境負荷低減**
  環境配慮型製品や素材の開発、展開／環境対応車へのDLCコーティングの普及拡大

その他

- 奨学金制度
- ジェンダー平等に向けたポートフォリオ作成
- グループガバナンス強化研修の拡大
- 社員満足度向上
- 産業廃棄物削減
- 障害者法定雇用率超
- 協力会･社内外情報共有システム

など

図 3　当社グループの主な事業活動とSDGs

3．温室効果ガス排出量削減への取組み

当社グループでは、気候変動への対応を経営の最重要課題の一つと位置付けており、事業プロセスで環境に与える影響を常に評価し、継続的な改善に努めてきている。

前述の気候変動への対応の一つとして、当社グループは、国際的な環境団体であるSBTイニシアチブ（SBTi：Science Based Targets initiative）(1)の認定取得を目指し、企業活動全体で排出する温室効果ガスの総量削減に取組む旨を2019年9月に宣言した。そして、「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドラインVer2.3」（環境省・経済産業省発行）に基づき、海外関係会社を含めた当社グループのサプライチェーン全体における温室効果ガス排出量を算出し、削減目標の基準となる2018年度の温室効果ガス排出量（**図４**）の集計方法を確立した。

温室効果ガス排出量削減目標については、2030年度に2018年度比でScope1+2において35％削減、Scope3において30％削減という非常に意欲的な長期目標（**表１**）を策定し、SBTiから科学的根拠に基づいた目標として承認され、2021年6月に認定を受けた。

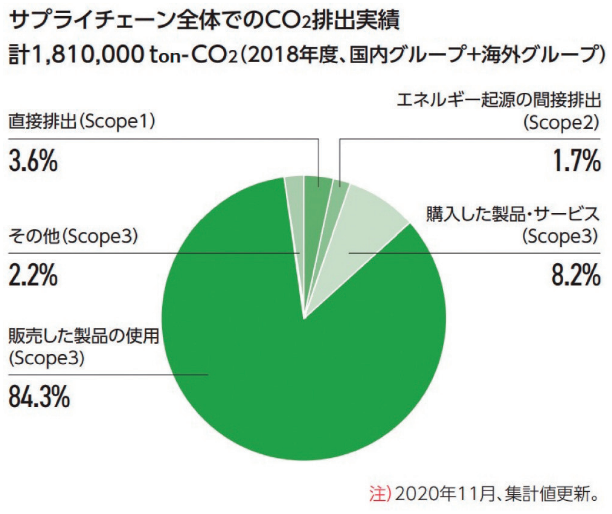

図４　サプライチェーン全体でのCO_2排出実績

表１　サプライチェーン排出量(2)とScope別削減目標

Scope別	CO_2排出量（千ton-CO_2／年）				削減率（％）	
	2018年度（基準年）		2030年度目標		SBT目標届出	
	Scope1+2	Scope3	Scope1+2	Scope3	Scope1+2	Scope3
当社グループ	97	1,713	63	1,199	△35	△30

温室効果ガス排出量削減の目標達成に向け、環境配慮製品の開発や環境に配慮した生産体制を構築し、各事業分野で取組みを展開しており、以下にその主なテーマを紹介する。

①SPSS(*)（スマート電力供給システム）の拡販

当社の電力機器と系統連系技術を駆使し、お客様の省エネルギーおよびBCP（事業継続計画）対策が可能なシステムを構築する。主力製品である超縮小形ガス絶縁開閉装置（GIS）、変圧器などの機器や分散型電源、エネルギー管理システムを組み合わせて省エネルギーと電力の安定供給を実現する。

②超高効率変圧器への移行

従来の変圧器に比べ、電力損失を低減させた超高効率変圧器の提案、販売を促進する。

③環境に配慮したGISの開発

温室効果ガスの使用量削減と当社の強みであるコンパクト化を実現したGISを市場に提供する。

④半導体・フラットパネルディスプレイ製造用イオン注入装置の省エネルギー化

地球環境負荷低減の要求に応え、省エネルギー化を進め、地球環境に配慮したイオン注入装置を市場に提供する。

⑤環境に配慮した電子線照射装置の開発

温室効果ガスの削減を目指し、製品開発を進め、環境に配慮した電子線照射装置を市場に提供する。

これら活動は、SDGsの「目標13：気候変動に具体的な対策を」への貢献の証となるものであり、2050年カーボンニュートラルにつながる取組みである。

4．まとめ

当社グループのSDGsへの取組みを紹介した。

当社グループは、「VISION2025」の成長戦略を含む事業活動および基盤強化活動などにおいて、SDGs達成への貢献を強く意識すると共に、継続的な温室効果ガス排出量削減を図り、気候変動に関する情報開示を進め、グループ一丸となって、事業を通じて、より一層の社会課題の解決を目指す所存である。

（１）Science Based Targetsは、パリ協定（世界の気温上昇を産業革命前より2℃を十分に下回る水準（Well Below 2℃）に抑え、また1.5℃に抑えることを目指すもの）が求める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと。
SBTイニシアチブ
（SBTi：Science Based Targets initiative）科学的根拠に基づいた温室効果ガス排出量削減の中長期目標設定を推奨している国際的イニシアチブ（団体）。

（2）サプライチェーン排出量

自社からの排出だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量。つまり、原材料調達・製造・物流・販売・廃棄など、一連の流れ全体から発生する温室効果ガス排出量のこと。

サプライチェーン排出量＝Scope1＋Scope2＋Scope3

Scope1：自社の事業活動で使用する燃料や生産プロセスから直接排出するCO_2

Scope2：自社の事業活動で購入した電気・熱使用による間接排出するCO_2

Scope3：Scope1,2以外の間接排出するCO_2（販売した製品の使用、購入した製品・サービス、その他）

（＊）SPSSは、日新電機㈱の登録商標です。

✎執筆者紹介

小池　辰典　Koike Yoshinori
生産技術本部
SDGs推進室長